



学校だより

5月号

横浜市立東本郷小学校

令和4年4月28日

ひとにやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子



願いがあるから

学校長 堂腰 康博

季節の移ろいが加速し、校庭に咲き誇っていた八重桜が、空に花びらを大量に放っています。青い空に映える桜吹雪の中を、赤い傘を広げて下校する一人の子どもが見えました。空から降る花びらを雨に見立てたのでしょうか。わたしは、その瑞々しい感性と子どもらしい世界に感激し、バス停に向かって急いでいる足を止めました。その子は、わたしの姿を見つけると、傘をすぼめ、小走りで近づいてきてくれたので、大きな声でこう讚えました。

「今、映っていた景色、きれいだったよ。テレビのCMみたいに。君のアイデアに感動したよ。」

「東本郷小の子どもは素敵だなあ」と伝え、名前と学年（2年生であること）を教えてもらい、一緒に歩くことにしました。

「校長先生、お出かけするの?」「はい。これから緑区役所です。（バスの時間…もう無理か…）」

「校長先生って、前も校長先生だったの?」「そうですよ。（経験を生かしてがんばります…）」次に、予想外の質問がとんできました。「ねえ、校長先生って、校長先生になりたかったの?」

ふっと初心に戻された気がしました。

「東本郷小の子どもたちみんなが成長していくのを応援できるから、校長先生をやらせてもらえてうれしいよ。」聞かれたことにまっすぐ答えられませんでした。正直な気持ちで話しました。

朝会で、全校に向けて学校教育目標について話をしました。「校訓」のような意味合いがあり、人間形成にあたって大切にしたい理念として、長く継承されてきましたが、子どもたちにとって活きた目標として身近な存在となるように、与えられるのではなく主体的に捉えられるように、「がんばるがんばる最後まで」や「本気で取り組む」の文字の前に「なりたい自分になるために」や「できたらいいな、をかなえるために」という言葉を補って、自分の願いをまず思い浮かべて、この目標を見つめてほしいと伝えました。その願いは小さくても大きくても、時間がかからなくてもすぐかかっても、願いをもつことで自分を成長させることができるから、学校教育目標を希望の目標として読んでみませんか、と伝えました。

中休みの時間、わたしの話を聴いて、4年2組の子どもがさっそく感想を寄せてくれました。

「学校教育目標が自分を育てるためにあるのを知らなかったの、気づくことができました。」

「願いをかなえるために目標があることで、もっと『本気』で取り組めるようになると思います。」

子どもたちは、有能な学び手です。冒頭に紹介した子どもの姿のように、この子たちの発想を大切に育てていきたいです。ともに成長を実感できる東本郷小学校をつくっていきたいです。

「ねえ、校長先生って、校長先生になりたかったの?」いい答え出すから、もう少し待っててね。